

令和5年10月27日
14:00～
対面及びZOOMにて
定期巡回のクローバー

令和5年度第二回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議録

出席者：内海（醍醐学区民生委員会長）、高田（民生委員：欠席）、三好（老人福祉委員）、西村（醍醐北部包括センター所長：欠席）、新井（醍醐北部包括センター主任）、瓦葺（同和園訪問看護ステーション管理者）、山田（㈱四季代表取締役）、浅田（同和園居宅介護事業所長：ZOOM）、松井（地域・レインボーカフェ運営参加者）、星野（クローバー代表）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

（1）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

代表星野より挨拶

2024年の介護保険の改正について。2割負担の方の範囲拡大。原則2割負担という話も出ている。全体の25%という予測も出ている。本当に必要な方がサービスを受けられなくなったり、利用負担が上がることでカスタマーハラスメントや、自立支援よりもなんでもやってくれる事業所が選ばれるようになってしまわないか、などの懸念があるが、今後も選ばれる事業所を目指して尽力したい。ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

（2）R5年4月からR5年9月末までの事業所の動き、人材育成、周知活動に

ついて

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

・ご利用者の推移：R5年3月 ご利用者数 34名

R5年9月末 33名 平均要介護度3.4

ご利用者数は減っているが7月8月9月と新規依頼が多く、又看取りなどの介護度が高く、訪問回数が多い方の依頼も多かったため、一時期は38件ほどの利用になり、9月頭からは新規相談に対し10月までお待ちいただくようお願いすることとなっていた。

9月中に数名の入れ替わりが有り33名までとなった。10月から新規のご利用者を又受

け入れられることとなっている。

新しい職員や夜間の応援も 8 月、9 月と増え、R6 年 1 月にも職員が増える予定である。醍醐地域・山科地域で地域提供を積極的に行っている定期巡回の事業所として、地域のニーズに応えられるように人員や人材育成も含め対応していく。

○人材育成について

・昨年度より創設した「語る介」について。

自己評価でも意見が出ていたが活動や計画書に書かれている事への意見が登録ヘルパーや常勤ヘルパーの立場でも話せるようになった。不安に思っている事に対しての質問をする機会が増えて良かったとの意見が出ている。今後も常勤、登録に関わらず色々な意見が出せるような機会を設けて風通しの良い職場、働きやすい職場を目指し、職員の人材育成に努めていく。

・介護実習室

外部の福祉用品事業所の「しまだ」の協力を得て山科サテライト 3 階に介護ベッドと車いす、ポジショニング用のクッションを購入し、トランスファー技術研修等のための介護室の設置を行った。人材育成については弊社のヘルパーに対するものだけではなく、醍醐・山科の他の訪問介護事業所のヘルパーの介護技術研修の場に使っていただきたいと考えている。本年度醍醐連絡会で研修室の案内を立協からさせて頂いた。まだまだ周知が足りないと思われる為今後も周知されるよう活動していきたい。

この研修室は地域の方や居宅の方にも利用して頂きたいと考えている。地域の方におかれましては弊社の職員に日頃の介護での疑問などを質問しながら技術を学ぶ機会として使用して頂ければ良いのではと思っているので何か「こんなこと」「あんなこと」有ればご相談ください。

(内海) 民生委員は直接お世話をするのではないが、一つのスキルとしてあっても良いかとは思いますが、民生委員の支援に繋がることはないか、と思う。

→勉強の機会として捉えて頂ければ良いと思う。

・おむつ研修

「しまだ」のサポートを得て外部業者によるおむつ研修を行った。施設での介護経験豊富な弊社の介護者達が「目から鱗」と思うような事が沢山あった。

・救命救急講座

11 月 24 日に 14 時から山科の介護実習室にて行います。定員は 10 名で消防署が来てくれます。地域の方で参加されたい方があれば醍醐事務所までご連絡ください。先着順となりますのでよろしくお願ひします。

○地域の方はどうか？

(松井) 救命救急よりも介護の実習勉強の方がニーズがあるかも。

○周知活動について（資料配布有り）

本年度も出来る限り1ヶ月に1回は居宅への訪問をしている。

居宅への周知活動・・・訪看から看取りの依頼も3件ほどあった。「最期の時を自宅で」との思いに少しでも答えていきたいと考え調整が難しい中でも受けるようにしていた。しかし、その方達は訪看から先に相談が入り、後からケアマネージャーから依頼がある。まだまだ居宅への周知活動が足りないということか？最近滋賀県の居宅から依頼があるなど小さな居宅も増えているのか？

今年度から訪問介護事業所の「れんげそう」様の協力を得てチーム型定期巡回の活動を試験的に行っている。

周知活動の際、数ヶ月前には周知活動の際に他訪問介護事業所を5件ほど訪問し簡単な説明を行ったが、中々興味を持って頂けないようであった。

（山田）最初は違う事業所の利用者を支援することがプレッシャーで、役割をしっかりと理解できていないままに支援開始したので、10分程度で本当に帰っていいのか？など困惑もあった。4か月経ってようやく慣れて活動させてもらい勉強になっている。研修の機会もたくさんあるのでモチベーションの向上に寄与している。

山科は事業所相互の連携が重要であるとは感じている。山科は訪看も25件がなかなか出来ていない。「忙しい」を理由に出来ていないことを、何からどのように取り組めるか、と考えていたところ、クローバーの取り組みに協力させてもらい役立っている。

実施している活動が「良い」のか「課題があるのか」という評価する機会をクローバーが持ってくださいと安心に繋がる。

➡BCPにしても、よその事業所だから分かん、ではなく手を繋いでいれば有事の際の協力も効果的に出来るのではないか。

退院時に要介護の高い方も、要介護度が下がっていくにしたがって必要とされるサービスも変わってくる。その際にも効率的に移行できるのではないか。

(3)医療との連携・・・

・連携をして頂いていて課題と思っておられることは？

（瓦葺）記録を見させてもらえるので、特に連絡がなくても状態が安定していることが把握出来ている。

（山田）看取りが増えており、ケアマネージャーに定期巡回を提案、紹介している。ケアマネージャーに定期巡回をより知ってもらえる機会とするためにも、すずらんから直接クローバーに連絡することはよほど緊急な時でない限りはしないようにしている。

○前回ご意見頂いた訪看への勉強会は実施できていない。今後職員も増員の中、役員で少

しずつ勉強会の周知をしていきたい。

地域の課題地域の課題・・・

・4月に山科で連携会議を行った際に老人福祉委員の方が「ケアマネージャーも付いている。生活保護を受けておられるがサービスが足りないと思うんだけどどうしたら良いのか？」と話され、そこに丁度担当の訪問看護ステーションも参加されており結局そこから訪問を通じ弊社に看取りで依頼があり、最期まで自宅で過ごされた。きっとまだまだ埋もれておられる高齢者の方々がおられるのではないかと？

その方達をどのようにサービスに繋げていくのか？

(内海・三好) すべての家庭を回れるわけでもないし、玄関先での立ち話であり、深くまで入り込んで本当のニーズというのは知るの難しい。あくまで安否確認が目的。コロナが落ち着いてきて地域活動が元に戻ってくれば多少課題を拾える機会も増えるとは思う。

(松井) 定期的に地域の方々に様々なテーマに従って「知ってもらおう」機会を設けている。同じ方が12名程度参加されている状況。きっと地域にはそういう情報が必要な方がたくさんいるとは思いますが、なかなか広げていくのは難しいと感じている。来てくださってる方にしっかりと情報を提供することを続けていきたい。

(浅田) コロナ前は法人として地域交流の機会を色々と持っていた。コロナでなにもかもがなくなってしまったが、敬老模擬店の再開を皮切りに北醍醐フェスティバルの参加など久しぶりに行った。地域ケア委員会を中心に色々と企画していくと思う。

・そもそも在宅での看取りはほとんどないのか？

(新井) 包括をしていると看取りからやや遠いところにいるが、決して看取りが在宅ではできないとは思っていない。

(浅田) 在宅看取りは国の方針にも挙がっており、意識している。最後をどこで迎えるかを決めるのは家族や本人であり、何を求めているかによって選択肢にならない場合もある。単位数が大きいので、デイサービスやショートステイをたくさん使いたいというニーズを持っておられたりすると定期巡回は入れられない。

加えて連絡のつきやすさは、連携の取りやすさなので、なかなか連絡のつきにくい事業所は連携取りにくいというイメージになってしまうかと思う。

ICTの活用について

(瓦葺) 往診医によって、LINE ワークスやMCSなど使われている連絡手段が違う。先生に合わせて使用している。

○自己評価・外部評価について・・・別紙有り

自己評価とは

事業所自ら行うサービスについて振り返りを行い、事業所として提供するサービスについて個々の事業者の問題意識を向上させ、事業所全体の質の向上に繋げていくことを目指すものです。

外部評価とは

介護・医療連携推進会議において、弊社が行った自己評価結果に基づき、事業所で提供されているサービスの内容や課題等について共有を図るとともに、利用者、地域の医療関係者、市町村職員、地域住民の代表者等が第三者の観点から評価を行うことにより、新たな課題や改善点を明らかにするもの。

ご意見を記入いただき、11月末から12月頭に連絡して回収に伺う。

次回 R6 年度第 1 回 介護・医療連携推進会議 : 令和 6 年 4 月に予定して

おります。ご協力をお願いいたします。

以上